

Title	男女関係におけるタイ語の「phīi」と「nǎwŋ」の使い方と性差
Author(s)	宮本, マラシー
Citation	大阪外国語大学論集. 20 p.13-p.21
Issue Date	1999-03-30
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/79782">https://hdl.handle.net/11094/79782</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 男女関係におけるタイ語の「phīi」と「น้อง」の使い方と性差

宮 本 マラシー

The Use of the Thai Terms “phīi” / “น้อง” and Gender

Marasri MIYAMOTO

This paper aims to study gender by analyzing the Thai kinship terms “phīi (older sibling)” and “น้อง (younger sibling)” that are used as references, addresses, and pronouns between men and women in various kinds of relationship seen in everyday life, literature, short stories, poems, love songs, and scenarios. It has been found that the terms “phīi” and “น้อง” which are used between lovers, betrotheds, and the like, as well as between husband and wife, connote unequal relationship between men and women in the Thai society in the sense that men are superior in power to women, for men use “phīi” to refer to themselves and receive the address “phīi” from women, while women are never addressed “phīi” by men whether or not there is a difference in age or social status between the two sexes.

(英語を訂正していただいた国際文化学科のズグスタ、リチャード先生に感謝したい)

## はじめに

タイ語の共通語「phīi」と「น้อง」は親族名称である。「phīi」は上の兄弟や姉妹 (older sibling) とその配偶者 (spouse of older sibling)、そして上のいとこ (older cousin) とその配偶者 (spouse of older cousin) を示す。「น้อง」は下の兄弟や姉妹 (younger sibling) とその配偶者 (spouse of younger sibling)、そして下のいとこ (younger cousin) とその配偶者 (spouse of younger cousin) を示す。「phīi」と「น้อง」は非親族の人に対しても、呼称詞 (reference & address) や人称代名詞 (personal pronoun) としてよく使用される。年齢的に少し差がある両者には、年上の者は「phīi」(場合により「phīi+名前 (first name) または愛称 (nick name) 」) を自称詞 (self-reference) または一人称代名詞 (the first personal pronoun) として用い、「น้อง」、「น้อง+名前または愛称」、「thəə」<sup>1</sup>、「cāo」<sup>2</sup>、相手

の名前または愛称が分かる場合はその「名前または愛称」を対称詞 (address) または二人称代名詞 (the second personal pronoun) として使用し、そして年下の者は、「nóng」、「nũu」<sup>3</sup>、あるいは「愛称」を自称詞または一人称代名詞として使い、「phii」または「phii+名前または愛称」を対称詞または二人称代名詞として使うことがある。男女関係において、Hass, Mary R. (1969) は、タイの社会では、夫婦はお互いのことを呼称するとき、「phuaまたはsāamii (夫)」、そして「mia または phanrayaa (妻)」という親族名称を使わずに、夫は妻のことを「nóng」と呼び、妻は夫のことを「phii」と呼ぶことがあると指摘した。また Tingsaphat, K. & Prasithrathsint, A. (1988) の調査においては夫婦の間には「phii」と「nóng (+名前、または愛称)」という言葉で呼称することが実際にあることを証明した。筆者の体験 (1998) から次のような会話を耳にしたことがある。

〔会話1〕 あるスーパーで買い物をしている50代の夫婦

夫: *Nan, dīao ?ao ɔn-phiiik maa hāi phii nōi.*

(ナン、後でちょっと細かいお金を<sup>僕</sup>phiiにちょうだい。)

〔会話2〕 ある市場で買い物をしている30代の女性は店員に

女性: *phii khao chōp, bōn yàak thaen maa tào naan lēo.*

(<sup>主人</sup>phiiが好きです。前から食べたがっていたんです。)

〔会話3〕 ある屋台で食事をしている30代の夫婦

妻: *phii ca sàp ?ao klàp bāan dūai mǎi..*

(<sup>あなた</sup>phii、持って帰りますか。)

以上の会話の例から、妻は夫のことを「phii」と呼び、他称詞としても「phii」という言葉で夫のことを言及することがあるし、夫は自分のことを「phii」と呼び、妻のことを愛称で呼ぶこともあるのが分かる。妻のことを「nóng」という親族名称より名前や愛称で呼ぶことが多いことは Tingsapat K. & Prasithrathsint A. の調査の結果にもあるように夫は妻のことを呼ぶとき最も多く使うのは名前や愛称である。しかし、呼称詞の使い方は個人の好み、家庭の事情、地域の特質などにも関わるので、どんな種類の言葉がどれぐらい使用されるかということについてはここでは扱わないことにする。いずれにせよ、タイの社会では夫婦関係に使用されている呼称詞や代名詞には「phii」と「nóng」という親族名称があることは事実である。

ここでは、男女の様々な関係において、夫婦関係以外に、その「phii」と「nóng」は呼称詞や代名詞として他にどのような形の関係に使われるか、そして、それらの用い方を通してタイの社会では男性と女性がどのような位置付けをされているかを考えたい。研究資料は、実在する人物の観察とその人達との体験以外にも、文学作品、小説、映画の台詞、そして特に男女の関係における様々な形の関係や様々な感情を描いている詞、歌謡曲 (love songs) から集めることにする。

## 研究資料の例

その資料の一部を次のように紹介したい。

### 【例1】短編小説

＜恋人同士。男は愛している女性に、一緒に生活するよう求める。＞

男： *pai yùu kàp phīi thà' . . . . .hàak rák phīi. rao pai yùu dūai kan, chūai kan  
tham-maa-hăa-kin. . . . .phīi ca mǎi hāi mǎa khǎw phīi ?òt-taai dǎk.* (Thanya,  
Phaithoon: 1987, “Khuu Chiwit Lae Luatnua”)

(<sup>おれ</sup>phīiを愛しているなら<sup>おれ</sup>phīiと暮らそう。一緒に稼いで、. . . . .<sup>おれ</sup>phīiは  
自分の妻には絶対食べることで苦勞させない。)

### 【例2】古典文学

＜カーテンを見て愛している女性のことを回想する男＞

男： “*māan nī fīmuu wanthǎw tham cam dāi mǎi phit nai-taa phīi*”  
(Khun-Chang Khun-Phaen)

(このカーテンはワントーンの作品だ。<sup>おれ</sup>phīiははっきりと覚えていて、間違いない)

### 【例3】恋愛の詩

＜愛している女性に＞

男： *nǎw thǎt nǎa yaa-yīi phīi ca klòm.* (Phongpaiboon, Naowarat: 1986, “Kham  
Yart”)

(眠りなさい. . . . .<sup>僕</sup>phīi が子守歌を歌うから)

### 【例4】恋愛の詩

＜夢の中の女性に＞

男： “*yàak nǎn-tàk phák-phǎw phǎw saphōok*

*lom yīb bōok booi khān thian wǎw rīi*

*?ǎw khuuam-fān theen fai nai raatrii*

*?ōo nǎao nī phīi nǎw rǎw hǎacai*” (Phongpaiboon, Naowarat: 1986, “Kham  
Yart”)

(膝枕で横になって暖めたい

冷たい風が強く吹いて、希望のロウソクは消えようとしている

この夜は火の代わりに夢で暖め

今年の冬も<sup>おれ</sup>phīiは寂しい心で寝る)

### 【例5】恋愛の歌謡曲

＜離れた恋人に＞

女性： *nǎw kho nǎao ?iik khraao chāi mǎi*

<sup>あなた</sup>  
phii *khos mǎi klàp khun bān naa* (Saao Kruan Suan Taeng)  
(今年の冬も<sup>私</sup>nóngはたぶんまた寒くなる〔寂しくなる〕でしょう  
<sup>あなた</sup>  
phii はおそらく帰ってこない)

【例6】恋愛の歌謡曲

<相手の女性の立場が自分より高いため、恋愛は思い通りにならない>

男性：*kiə-faa cǎo ?ǎai cǎo lǎai klai phii*  
*sīn kan phiao nīi, bun phii mǎi phǎo thiamthan* (King Faa)  
(天の花よ！<sup>私</sup>cǎoは<sup>僕</sup>phiiから遠くへ行ってしまった  
<sup>僕</sup>phiiが積んだ徳は少ないので、この恋愛はここでおしまいになってしまった)

【例7】恋愛の歌謡曲

<女性を口説いている男性>

女性：*hēn nók nóng bǔok wāa mǎi.*  
(鳥を見て、<sup>私</sup>nóngが木だと言え？)  
男性：*phii kǎ wāa mǎi pǎi taam waacaa* (Sanya Rak)  
(<sup>僕</sup>phiiもそのとおりに木だと言う。)

【例8】恋愛の歌謡曲

<女性を口説く>

男性：*bǔok nūt thǎ? nāa khon-dīi, bǔok phii sǎk kham. saamkhām thīi bāan khǎw cǎo*  
*kīn khāao kǎp ?arai. thǎw dāi nāarāk, sǎai nāk sǎai dǎo naaə-fǎa.....* (Kin  
Arai Thung Suai)  
(教えてください。こんなに可愛くて美しい<sup>君</sup>cǎoは普段何を食べるのか<sup>僕</sup>phiiに教えて  
ください。)

【例8】恋愛の歌謡曲

<初対面の女性に送る言葉>

男性：*lǎw tǎi phǎp saamwai nīa-?ūn, sǎao muaə satun khǎw phii nīi nǎw....* (Sii  
Saao Chao Tai)  
(南へ旅に行って出会ったサトン〔南タイの地名〕にいる<sup>おれ</sup>phiiの女.....)

【例9】恋愛の歌謡曲

<結婚式が近づいてきた婚約者>

男性：*klāi thǎw wan-wīwaa léao nāa yǎot duawcai.*  
(結婚の日が近づいてきたね。)  
女性：*wàn mǎi hǎai, nóng wàn mǎi hǎai, phii ?ǎai.* (Bot Rian Koon Wiwaa)  
(<sup>あなた</sup><sup>私</sup>phii！<sup>私</sup>nóngはとても心配しているのよ。)

【例10】恋愛の歌謡曲

<求愛された女性はその相手の男性に>

女性: *phias kham diao si yāak nàknāa ,man sēen ?ət?ān ?uraā thooramaa hūacai*

*phīi wāa mii khāa nāk chāi mǎi, thāa nōō phlōi pāk bōk pai*

*phīi khoō wāa mǎi cōcas.....* (Piang Kham Nan)

(その一言は非常に難しい。ずっと心の中にたまっている。

<sup>あなた</sup> *phīi* はとても価値があると言ったのですね。でももし<sup>私</sup> *nōō* がその言葉を簡単に言っ  
てしまえば<sup>あなた</sup> *phīi* は信じてくれないでしょう。)

【例11】映画の台詞

<前を通る美しい女性をからかっている男達>

男性: *nōō ...nōō...ca riip pai nǎi.....dīao-nūi ?uap?ət khūn na.....* (Hong

2 Run 44)

(<sup>君</sup> *nōō* .!..<sup>君</sup> *nōō* .! 急いでどこへ行くの?.....最近ますますセクシーになっ  
たね.....)

様々な男女関係においての「*phīi*」と「*nōō*」の使い方

資料のとおり、男女関係において「*phīi*」と「*nōō*」を呼称詞や代名詞として使用するのは夫婦関係以外に恋人同士、婚約者同士、口説いている男性と口説かれている女性、からかっている男性とからかわれている女性、過去の男または女、夢の中の女性との関係もあることが分かった。そして、小説、詩、歌の場合は、たとえば高級ホテル、高層ビル、外国製の香水の匂いがするところなどの都会を描く時よりも、田んぼ、川、花、風、月、米、小屋などのような田舎の雰囲気や地方の伝統などを描く際に使われる傾向にある。また、歌の場合は、duetには特によく使われている(90%ぐらいの duet の歌には「*phīi*」と「*nōō*」が用いられている)。しかし、「*phīi*」が使われているところに、「*nōō*」は、「*cāo*」、「*thəə*」、「*chán*」<sup>4</sup>、「名前や愛称」を代わりに使われていることがあるため、全体的に、「*nōō*」は「*phīi*」ほど使用されていない。資料の種類から言えば、「*nōō*」は詩や歌に他の種類の資料よりも比較的よく使用されている。詞や歌の中の男女関係は特定の男女のみに限定されているわけではないから、名前や愛称ではなく「*nōō*」の方が差し支えなく使いやすい言葉になると考えられるだろう。そして、それらの資料に出てきた男性と違い、どの関係においても、つまり相手の男との間に年齢や社会地位などに違いがあるか否かを問わず、女性は自分のことを「*phīi*」と呼ばないし、相手の男性からも「*phīi*」と呼ばれることはない。

## 「phīi」と「nǒɔŋ」が使用されている人間関係のタイプ

Brown, R. & Gilman, A. (1960) は「力と連帯の代名詞 (The Pronouns of Power and Solidarity)」という論文でフランス語、英語、イタリア語、スペイン語そしてドイツ語の人称代名詞を取り上げて説明しながら次のように指摘した。人は自分と相手との人間関係が相互的 (symmetrical または reciprocal) であるかそれとも非相互的 (asymmetrical または non-reciprocal) であるかを考慮してから代名詞の呼称詞を使う。両者は、学校の友達、同僚のような同じ所属または対等の立場であれば相互的關係であり連带的關係でもある。このときに使う代名詞は対等を表わす相互的なものである。しかし、自分と相手との関係には片方がもう一方と比べると、より年上、より高い社会的地位、より金持ち、より強い力、または片方がもう一方の親、雇用者のような身体的な力、経済的な立場、社会的な立場などの違いがあればすべて非相互的關係であり、つまり、片方はもう一方と比べると「より力がある (more powerful than)」という関係であれば、たとえば、フランス語の場合なら、相手のことを tu と呼ぶが、相手からは vous で呼ばれる。このような呼称詞の使い方は両者の関係にある力の差の意味をする (the power semantic) 使い方であり、力の性質は言語や社会によって異なっていく。

Brown & Gilmanを参考にした Tingsapat K. & Prasithrathsint, A. (1988) はタイ語の呼称詞を使う両者の人間関係を3つのタイプに分ける。

1. 相互的關係：話者と相手が平等の關係にあり、両者は互いの役割が同じだと認めている關係。たとえば、友人同士、恋人同士、知り合い同士、未知らぬもの同士。
2. 非相互的關係：話者と相手が違う立場にいる關係。たとえば、上の親族と下の親族の關係、夫婦、旦那と使用人、教師と生徒、など。
3. 中立の關係：話者と相手の立場が平等であるか否か、またはその違いを意識していない關係。たとえば、サービスを与える者とサービスを受ける者の關係。

ここで、筆者は Brown & Gilman と Tingsapat & Prasithrathsint の説を参考にしながら「phīi」と「nǒɔŋ」を使っているタイの男女の人間関係を考えたい。注目したいのは Tingsapat & Prasithrathsint は恋人同士は相互的關係にあるが夫婦は非相互的關係にあると指摘したところである。両氏は、タイの習慣によれば妻は夫に敬意を表わすのが当然であると説明を付けた。この説明を基に考えると、タイの社会では、社会的地位や年齢に差がある場合、片方が「phīi」と呼ばれたりもう一方が「nǒɔŋ」と呼ばれる他の親族または非親族の關係と違い、一般的には、夫婦の場合、夫のことを「phīi」、妻のことを「nǒɔŋ」と呼ぶのは、社会的な地位や年齢だけではなく、「夫であること」と「妻であること」も配慮の基準となっていると考えられるだろう。「夫であること」は「phīi」と呼ばれるべきであるということである。しかし、恋人、婚約者、などの他の男女関係も、一般的に言えば、それらの關係は女性と男性との間の相互的關係だと思われるだろうが、呼称詞や代名詞の使い方を観察すると、仮に、女性が年上であっても「phīi」

にはならず、「phīi」を自称詞や他称詞として使用される対象は男性にしかないということが分かった。これに基づいて考えれば、タイの社会では、夫婦以外の男女関係も夫婦関係と同じように非相互的關係で力的關係であり、そして、そのような関係の中に、より社会的な力があるとされるのは女性ではなく、男性であるということである。

### 「phīi」と「nóng」に対する伝統的な価値観とその社会的位置付け

親族同士の場合、上の兄弟や姉妹である「phīi」は下の兄弟または姉妹の「nóng」の面倒を見たり、守ったり、また指導やリーダーシップをとったりするし、必要であれば親の代わりに注意したり、命令や指示を出したりすることも出来る立場にいますが、それに対し「nóng」は「phīi」に従ったり、敬意を表わしたりするよう義務付けられていて、「phīi」に抵抗したり、侮辱的な言動をしたりすると「悪い人間」だと思われ、社会の中で許されない。このことは、タイの「phīi」と「nóng」という親族関係における伝統的な習慣だけではなく、非親族における「phīi」と「nóng」という関係にも同じように求められている。日常生活でよく見られるように、自分は「nóng」だと認識すると、初対面から相手を「phīi」と呼んで先に合掌して挨拶するとその関係はうまくいくとされている。そのルールに従わなければ、「māi rúcāk thīi-tām thīi-sūuŋ (貴賤の別をわきまえぬ)」と言われて、付き合いの障害ともなる。他の例としては、ある大学の後輩である「nóng」に歌わせる大学の歌には

“*khaoróp phīi...khaoróp phīi...khaoróp phīi.....*”

(phīi...を尊敬する、phīi...を尊敬する、phīi...を尊敬する.....) という歌詞から始まるものがある。この歌は先輩と後輩は同じ家族の者同士のように仲良くして、面倒を見てくれる先輩に後輩は敬意を表わし、従うことを表現する。また、

“*mīi ɔn khaō nāp wāa nóng, mīi thɔɔ khaō nāp wāa phīi*”

(銀があればnóngと見なされ、金があればphīiと見なされる。=名誉や金持ちになると親戚と称する者が大勢現われて寄生する) という諺がある。この諺にはnóngは銀と例えられ、銀より高価である金はphīiと例えられる。

要するに、例で示されたように、「phīi」と「nóng」という関係は親族であろうと非親族であろうと、nóngはphīiより下位の立場に置かれ、両者の関係における社会の義務やルールに従うことを要求されている。男女関係においても、タイの社会は、「nóng」である女性は「phīi」である男性と対等ではなく、女性は保護されて従属する存在で下位に置かれ、男性は支配的、権威を維持する存在で優位に立たされているように、社会的な力の差によって上下に区別されているいわゆる縦社会の人間関係の一つの形だと考えられる。



## おわりに

この研究は呼称詞や代名詞として使われている「phii」と「nóɔŋ」という言葉を通してタイの男女関係の現状を論ずるものである。民主主義の進んでいる西洋の文化を直接にたくさん受け入れている都会より、そこから離れたところの生活環境や自然が背景となっている男女の関係には「phii」と「nóɔŋ」が比較的多く使用されているということもすでに触れている。このことについて Brown & Gilman の指摘にもあるように、階層的な社会構造が緩み、民主主義が育っていくと、それに伴った代名詞の用法においての人間関係の主流は、力に重点を置く方向から連帯を重視する方向へと変っていくことも考えられる。また、laosriwong , N. (1995) も、現在のタイの新聞には大臣のような社会的地位の高い者を「thāan」<sup>5</sup>の代わりに「kháo」<sup>6</sup>という三人称代名詞で言及するようになりつつあることを説明しながらタイ語における民主主義化を論じたことがある。従って、これからは男女の間の「phii」と「nóɔŋ」の使い方にも変化が起これると思われるだろう。

## 注

- (1) 「君」や「おまえ」に当たる、対等以下の人に対して使われる人称代名詞である。
- (2) 「君」に当たる、対等以下の人に対して使われる二人称代名詞である。
- (3) 「鼠」という意味があり、目上や年上の人に対して、子供や女性は自称詞として使ったり、対称詞として使われたりする。
- (4) 「私」、主に女性が一人称代名詞として使っている。
- (5) 「彼」、「彼女」、三人称代名詞の丁寧表現。
- (6) 「彼(ら)」、「彼女(達)」、単数も複数も使うことができる一般の人を言及するときに使われる三人称代名詞。

## 主要参考文献

- Brown, R. & Gilman, A. (1960) , "The Pronoun of Power and Solidarity" in *Language and Social Context*, ed. by Pier P. Giglioli, Penguin Education. 1972.
- Frank, F. & Anshen F. (1983) , *Language and the Sexes*, 吉村秀幸／中村則之[訳]. 関西大学出版部. 1995.
- Gething, Thomas W. (1972) , *Aspects of Meaning in Thai Nominals*. Mouton.
- Hass, Mary R. (1969) , "Sibling Terms as Used by Marriage Partners" in *Language, Culture, and History*, ed. by Anwar S. Dil. Standford University Press. 1978.
- laosriwong, Nithi (1995) , *Khoon, Kharabao, Nannao, lae Nangthai*. Matichon Press.
- Key, Mary R. (1996) , *Male/Female Language*. The Scarecrow Press.
- 落合恵子 (1998) 「歌に表現された女たち」、『「ことば」に見る女性』(井出祥子、監修)、クレヨンハウス。

- 鈴木孝夫 (1970) 「親族名称による英語の自己表現と呼称」、『鈴木孝夫言語文学ノート』、大修館書店、1998.
- Tingsapat, K. & Prasithrathsint, A. (1988), *Karn-Chai Kham-Riakkhaan Nai Phasaa Thai Samai Krungrattanakosin*. Chulalongkorn University.
- 富田竹次郎 (1990) 『タイ日辞典』、養徳社。

(1998. 9 .11 受理)